

“防災に思う”

石原靖造

初めに一つお断りがあります。本稿のテーマは9月のもので、書き掛けた矢先に私がコロナに感染し中断していたものですが、編集長の依頼で最後まで書かせて頂いたものです。内容がZOOM会の話と一部重複しますがご了解下さい。

100年前の関東大震災、最近ではモロッコの大地震、リビアの大洪水、その惨状をテレビで観るにつけ、何方も胸を痛められると同時に、ふとこれからの我が身は大丈夫かと思われたのではないのでしょうか？

9月のテーマの一つが“自分の防災対策”でもありいい機会ですので、自分は防災とどの様に向き合っているのか、整理させて貰う事にしました。

何方の防災対策も過去の被災経験に基づき成り立っているものと思います。私は風水害の辛い経験はありませんが、地震では大きなのが3度あります。

1945年（昭和20年）1月13日 マグニチュード6.8の三河地震。愛知県の疎開先で小学5年の時です。真夜中に父親と火鉢抱えて雪の中へ裸足で飛び出したのを覚えています。

2度目は1995年（平成7年）1月17日の阪神・淡路大震災、マグニチュード7.3。単身赴任先の大阪文の里の実家で大きな揺れを体験、古い木造の家が崩れるかと思いました。当時石津川のタンク倉庫会社に勤めていましたので、これは大変な事になったと当てもなく家を出ましたら、地下鉄は止まってましたが、阪堺線のチンチン電車が何故か動いているのにはびっくりしました。阿倍野から堺まで行き後は歩きました。タンクにひびは入ってましたが、中の預かっている植物油が漏れて海へ流れ出す事もなく、あの時程胸を撫で下ろした時はありませんでした。

3度目は2011年（平成23年）3月11日、東日本大震災、マグニチュード9.0千葉県柏市の自宅での体験で、マンションが崩れるのではと思う程結構な揺れでしたが、何とか事無きを得ました。

この3大地震の経験から将来30年以内に70%の確率と予測される首都圏直下

型大地震に物・心両面で備えねばと常々思っている処です。

幸い娘が町内会の防災班でもありますので、防災グッズは私の一人分付け加えて貰う様頼んで来ましたが、中身は全く理解していませんでした。今回いい機会でしたので、その内容を見る事にしましたが、世の中の進歩と共にこちらも進んでいる事に驚きました。

飲料水や缶詰など食料品は基本ですが、先ず軽い段ボール組み立て簡易トイレ（写真）があります。大きい方も小さい方も凝固剤を入れると固く固まり、燃えるゴミとして出せます。

かんたん!!ダンボールトイレ



次にソーラー発電器です（写真）。外に置くだけで発電されるので、スマホの電池切れの心配はありません。他に電気を必要とする小物なら何でも使えます



あと一つ懐中電灯があります（写真）。外に置くだけで発電・充電されますし、押し潰せば小さくもなります。



これら防災グッズは大工マーケットや Amazon のネット通販でも山ほど出ています。お役所より当座の避難用に何が必要かの指針はありますが、どの様に備えるかはあくまで個人の判断になります。

あと皆さんのお家にもあると思います。無事 OK, 助けて SOS (写真) の表示板があります。



3月11日と9月1日の防災の日の訓練に玄関先の良く見える所に掲げますが、何時も無事 OK ばかりなので、ふと助

けて SOS はどんな時に掲げるのかなと思いました。助けて SOS を簡単に出せる様なら、そのまま避難所へ行った方がいいですし、瓦礫の下敷きになったのでは出せませんし、結局大怪我を負ったが何とか這って玄関まで行き、やっと掲げる事が出来た人だけになるのではとったりしました。又仮に表示が出ていても防災班の人でも被災すれば見廻りどこでは無いかも知れません。

この表示板が現実にとどの様に機能するのか中々思い描けませんが、防災意識を高める為のものであるとすれば、何となく分かる気がします。

“長生きはしたいが、震災は怖い” 何とも悩ましい課題ではあります。さて皆さんの防災対策は如何なってますでしょうか？

令和5年10月7日

(完)